

名寄市における

平成 22 年度「全国学力・学習状況調査」の結果について

平成 22 年 4 月 20 日（火）に、小学校 6 年生、中学校 3 年生を対象にした「全国学力・学習状況調査」が行われ、名寄市では市内全小中学校の該当児童生徒（小学生 255 名、中学生 245 名）が当調査に参加しましたので、その結果について概要をお知らせします。

良い点や課題となる点については、これまでの 3 年間と同じような傾向を示しておりますが、特に次の点で成果が現れてきています。

◎漢字を書くことについては、全国平均を上回るなど宿題等の効果が現れてきました。

◎小学校では、テレビ等を見る時間が減少し、家庭での生活が見直されつつあります。

◎中学校では、家での宿題をする生徒が増えてきています。

以下、各教科ごとの分析結果の特徴的な点をお知らせします。

1 各教科ごとの学力調査について

A～主として知識・技能の定着に関する調査 B～主として知識・技能の活用に関する調査

<小学校国語>

A～◎漢字を書くことについては正答率が高かった。

B～◎聞き手が質問した内容に合う質問の観点を選択する問題では、正答率が高かった。

B～●自分の考えをまとめながら記述することに課題がある。

全～◎話すこと・聞くことは得意であるが、書くこと・読むことが苦手な傾向がある。

<小学校算数>

A～○四則計算では、単純計算はできるものの、計算規則（かけ算を先にするなど）が必要な問題では、正答率が低い結果となった。

B～◎二次元表の中の数が表す事柄を 2 つの項目と単位に着目して読み取り、その内容を記述する問題では、正答率が高かった。

B～◎量と測定、数量や図形についての表現・処理については、正答率が高かった。

全～●数量や図形についての知識・理解に課題がある。

<中学校国語>

A～◎「伝えるべき内容について整理して書く」「語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う」などの問題では、正答率が高かった。

A～●「論理の展開の仕方を考えて、内容を理解する」問題では、正答率が低かった。

B～◎「新聞を読んで興味をもった記事について感想を書く」問題では、正答率が高かった。

B～●話す能力や聞く能力についての課題が明らかとなった。

全～◎漢字や語句など言語事項については、よい結果となった。

<中学校数学>

- A～◎確率の意味の理解については、正答率が高かった。
- A～● 三角形の外角を表す式の問題では、正答率が低かった。
- B～◎事象を図形に着目して観察し、その特徴を的確にとらえる問題では、正答率が高かった。
- 全～●基礎的、基本的知識や技能を活用・応用したり、関数や図形など論理的に説明や証明をすることが課題である。

2 学習状況調査結果について

<小学校>

- ◎家で学校の授業の復習をしている児童が大変多かった。
- ◎「普通の授業では、本やインターネットを使って、グループで調べる活動をよく行っている」と答えた割合が、全国より高い結果となった。
- 「自分には、よいところがあると思いますか」の質問に、「ある。どちらかというところ。」と答えた児童が6割程度で、全国と比べると低い結果となった。

<中学校>

- ◎「どちらかと言うと読書は好き」と答えた生徒が8割近くおり、全国を上回った。
- ◎「地域行事へ参加している」「家の手伝いしている」では全国を上回った。
- 「近所の人にあいさつをしている」と答えた生徒は全国と比べると少なかった。

<全体として>

- 朝食では、「全く食べない」と答えた児童・生徒が1～2%いる。
- 平日の家庭学習の時間が1時間以上の割合が、全国と比べると半分程度であった。

3 正答率と学習状況調査との相関関係について

学力調査結果で正答率が高いグループ（上位G）と正答率が低いグループ（下位G）における学習状況調査結果の関連性を考察した結果、以下のような傾向が見られました。

<朝食>

- ・上位Gでは、90%以上の子が朝食を食べているが、下位Gは80%程度と低い結果となった。

<早寝早起き>

- ・上位Gは、ほぼ同じ時刻に寝起きしているが、下位Gは寝る時刻が不規則である。
- ・上位Gは、睡眠時間が7～8時間でほぼ一定であるが、下位Gは10時間以上の児童生徒や6時間以下の生徒など幅のある結果となった。

<家庭学習>

- ・1時間以上の家庭学習では、下位Gは上位Gに比べて10%前後低い結果となった。

<テレビ・ゲームなどの時間>

- ・全国平均と比べると多い傾向であるが、上位Gと下位Gとの大きな差はなかった。

以上の結果から、規則正しい生活や家庭学習が学力の向上に少なからず影響があると考えられます。

4 今後の取組について

名寄市教育委員会では、各学校との一層の連携を図りながら、以下の点を重点的に推進してまいります。

- (1) 基礎的事項の定着を図る時間の確保、適切な宿題や定期的な復習など、単元を見通した指導及び一層の授業の改善・充実。
- (2) 小学校における「早寝早起き朝ご飯」「読書活動」の更なる推進とともに、低学年のうちに学習習慣や規則正しい生活習慣などの定着を図る取組の強化。
- (3) 中学校では、学習意欲の向上を図るキャリア教育等の一層の充実。
- (4) 家庭と学校との信頼関係の一層の構築と、子ども達の良さを認め励ます指導の充実。
- (5) 児童生徒が、未来に夢や希望を持って切磋琢磨する学習環境の整備。